

第 24 回 BC 州日本語弁論大会  
2012 年 3 月 3 日 (土)  
優秀作品集

BC 州日本語弁論大会実行委員会

この作品集は、参加者の原稿を元に BC 州日本語弁論大会実行委員会が編集したものである。

## 第 24 回 B C 州日本語弁論大会

日時：2012年3月3日 土曜日 午前10時00分

場所：SFU Halpern Centre

コーディネーター：Rebecca Chau (UBC/ブリティッシュコロンビア大学)

Noriko Omae (SFU/サイモンフレーザー大学)

司会者：Mark Wisniewski

審査員：Martha Bassett (St. Georges School)

Noriko Kosaka (Alpha Secondary School)

Kanako Maruyama (UBC-Ritsumeikan)

Yuko Nakamoto (JALTA)

Masaaki Nishira (Kiyukai)

Yoko Shimosaka (Global Partners Institute)

Belen Fan (UBC)

Hideki Ito (Consul-General of Japan)

Shojiro Kodama (Konwakai)

Dr. Ryuko Kubota (UBC)

Nobuyuki Naito (Mitsui Canada)

Yuri Naito (Douglas College)

Akemi Takei (Langara College)

出場者：

### 【高校 初級】

1. Jae Hoon Choi いじめののぞき Peek at Ijime
2. Andrea Chu 新たな視点 A New Perspective
3. Joshua Fernandez デニスリッチーはだれでしたか Who was Dennis Ritchie?
4. Andy Song 僕の日常 My Normal Life
5. Rachel Van ラストプレゼント Last Present
6. Evita Wang わたしのすきなもの Things I Like

### 【高校 中級】

1. Young Hoo Cho 山手線と僕 Yamanote Line and Me
2. Yoohyun Cho 180度変わった私の考え My Thoughts that were Transformed
3. Jessica Guan じしんよりもっとつよいもの  
Something More Powerful than Earthquakes
4. Uhram Kim となりのひと People around Me
5. Kristy Lien もしこの世界が終わったら If the World Ends
6. Ahsley Loo 大胆不敵な女 A Fierce Woman

7. Olive Wang 幸せの意味 The Meaning of Joy

【高校 オープン】

1. Iris Hu こたえはここに The Answer Lies in Our Hearts
2. Shana Yi わたしはだれでしょう？ Who Am I?
3. Tielia Young アニメよ、どこへいく？ Anime, Where Are You Going?

【大学・一般 初級】

- 1.
2. Jeremy Kavka きえた水のあわから学んだゆうき  
From the Burst Bubble, I Learned to be Brave
3. Joanne Kim 相手を愛する方法を習いましたか？ Did You Learn to Love?
4. Junhao Li 技術の進歩と人間の生活  
Technology Development and People's Lives
5. Michael Ni 私と日本 Japan and I
6. Lin Zhu NEET と僕の対話 My Conversation with a NEET

【大学・一般 中級】

1. Esther Lee フェイスブックの進化 Development of Facebook
2. Pauline Tsui 腐女子と呼ばれる女性 Females Called "Fujoshi"
3. Sally Wu なぜ、弟ばかり？ Why Just My Brother?
4. Lauretta Yu 「絆」 Kizuna

【大学・一般 上級】

1. Tian Yi Dong 頑張り過ぎない勇気 The Courage to Take Things Easy
2. Jennie Ham 世界を回るハッピーウイルス Spread the Happy Virus
3. Vivian He 河童と自然と人間 Kappa, Nature and Human Beings
4. Chen Lu 「はい」と「いいえ」 Yes and No
5. Erin Paakkonen クォーターライフクライシス Quarterlife Crisis
6. Francisca Park 日本の大天災をめぐって Concerning Japan's Great Disaster
7. Dayeon Yoo 今の価値 How Important is "The Present" to You?
8. Angela Yi フェイスブック=フェイス・ツー・フェイス？ Facebook=Fact to Face?

## 入賞者

### 【高校部門】

初級部門	第1位	Rachel Van	ラストプレゼント
	第2位	Jae Hoon Choi	いじめののぞき
	第3位	Andy Song	僕の日常
	特別賞	Joshua Fernandez	デニスリッチーはだれでしたか
中級	第1位	Ashley Loo	大胆不敵な女
	第2位	YoungHoo Cho	山手線と僕
	第3位	Yoohyun Cho	180度変わった私の考え
	特別賞	Uhram Kim	となりのひと
オープン	第1位	Shana Yi	わたしはだれでしょう？
	第2位	Tielia Young	アニメよ、どこへいく？
	第3位	Iris Hu	こたえはここに

### 【大学・一般部門】

初級	第1位		
	第2位	Jeremy Kavka	きえた水のあわから学んだゆうき
	第3位	Junhao Li	技術の進歩と人間の生活
	特別賞	Lin Zhu	NEET と僕の対話
中級	第1位	Sally Wu	なぜ、弟ばかり？
	第2位	Lauretta Yu	「絆」
	第3位	Pauline Tsui	腐女子と呼ばれる女性
上級	第1位	Francisca Park	日本の大天災をめぐるって
	第2位	Vivian He	河童と自然と人間
	第3位	Angela Yi	フェイスブック＝フェイス・ツー・フェイス？
	特別賞	Erin Paakkonen	クォーターライフクライシス

## ラストプレゼント

Rachel Van

ちいさいころ、私は家族やまわりのひとがあまりだいじだとはおもいませんでした。むしろ「ああしなさい、こうしなさい。」といろいろいわれるのが、めんどろうとましかったのです。

内気な私はいつも、ひとの目をきにしていました。よいせいせきをとるためやピアノでもしょうをとるためにどりよくしました。でも心の中はなんだかさみしかったです。

セカンダリーには行ってからも、友達のかずはふえてきましたが、本当の気持ちがそこにはない私に、心がつうじる友達はできませんでした。私のさみしさはふかまるばかりでした。

こんな私に16年よりそってくれた人、それは祖母でした。2011年12月7日、その祖母が亡くなりました。その日は、くしくも私の16才の誕生日でもありました。祖母は家族が仕事や学校からかえってくるのをいつも窓からにこやかに迎えてくれました。しかし、私はそんな祖母の存在の大きさに全く気づかずにいました。

祖母の人生はひさんでくろうも多かったときいています、祖母からそんな話をきいたこともなく、いつも小さいころの歌やたのしいことばかり話してくれました。にゆういんしてからきづいたのですが、まわりにいる人は、みんなてんしんらんまんな祖母に、おもわずえがおになってしまうのです。祖母はいつも、おやゆびをたてた「サムズアップ」サインをします。ホスピスにうつってから、祖母のサムズアップはあいかわらずつづいていました。だれにでも、なににでも「いい」「もちろん」「だいじょうぶ」「おいしい」とおやゆびをたててほほえんでいました。最後まで好奇心がつよく、ことばも、年令もせいべつもなんのしょうがいにもならなかった祖母の生きかたが、そこで初めて私に語りかけてきました。くろうがおおかつたぶん、心がひろく、やさしかった祖母。ありのままをうけいれていた祖母。けっしてうらまず、今を明るく生きていた祖母。そんな祖母がだいすきな私たち家族は、祖母がなくなるその日まで一日もかかさず、あいに行きました。イギリス、マカオ、オーストラリアなどにちらばっているしんせきも、祖母のそうぎにさんれつしました。祖母は今も世界中で生きているんだと思います。そのDNAをのこしたばかりでなく、悲観的な私に「もっとあかるく、もっと自分らしく、おもうように毎日をたのしみなさい。自分から心をひらくのよ。」と最後のクリスマスプレゼントをのこしてくれたのです。

## いじめののぞき

Jae Hoon Choi

すうじつ前、私は友達といっしょに誰でも驚くべきビデオをユーチューブで見ました。それは私と同じ年頃の男の学生五人が、一人の友達をなぐっていることをとったことでした。それに、とっているひとはときどきわらっていました。ショッキングでした。いじめやサイバーブリーはいろいろなところで聞いたことはあったんですが、実際を見たのは初めてなので、私はびっくりしました。「いったい彼らは誰だろう？なぜそうするんだろう？いじめられているひとはだれ？」それが私の疑問でした。

たいてい、いじめの犠牲者は体または関係が弱い人だそうです。上の場合、殴られた人もあまり英語ができない、新しく米国にきた人でした。それでは、五人は誰でどうしてそうするのでしょうか？ひとつの答えはもしホルモンから来るかもしれません。この年頃の若者たちには、男性ホルモンがあふれてマツチョみたいに見えたがるとか暴力的になるとかします。その中にはピアプレッシャーで、やむを得ずいじめに参加する人もいるでしょう。参加しないと自分自身が犠牲者になるだろうと、その恐れで友達をいじめるのもひとつの理由です。つぶれた関係（たとえば家庭内の暴力と無関心、またはひどい競争）で苦しんでいるひと、それを変な方法で解決しようとする人も彼らの一部です。

ずっと探してみながら、私はどちらも弱いものに違いないと考えました。弱いものが集まって弱いものをいじめる。それはとんでもない悲しい話ですね。いじめの解決方法についてもわたしは探してみましたが、確かな答えは得られませんでした。

皆さんはピンクデーという日を知っていますか。四月二番目の水曜日で、その由来が私には答えになるかもしれません。ノバスコシアのある高校で桃色のシャツを着たからいじめられた人がいました。その友達のため、学生全体がピンクシャツをきてからこの日が始まったといわれます。その後、この日はこくさいてきなアンティ-いじめのひになりました。くるしんでいる人への心使い、暴力と不儀に立ち向かう勇気、それが本当に弱い人が集まるべき理由じゃないでしょうか。こんどのピンクデー、私もピンクシャツをきるつもりです。

## 僕の日常

Andy Song

僕はアニメと小説がだいすきです。今は僕の命といってもいいです。アニメと小説がなくなったら、僕は生きていけません。なぜかときかれましたあまりよくわかりませんが、僕にとって人生は一つですが、アニメや小説のなかではさまざまなじんせいが体験できるからだと思います。いろいろな素晴らしい人に出会い、いろいろな未知の場所へもいけるので本当に興奮します。どんなにそれがフィクションであってもアニメと小説がだいすきです。

それにくらべ、僕の日常はとても平凡です。時々僕は自分の将来について考えます。普通の人には高校をそつぎょうして、大学へ行って、そして仕事をみつけ、結婚し家庭を持ちます。しかし、僕はそんな人生はまっぴらです。平和な日常が一番だと思っていません。でも自分の存在は小さくて未熟です。そして今の僕の人生はまったくその平凡な日々の繰返しです。だんだん生きることのいみがうすうれてきています。「これでいいのか?」「これが僕の人生なのか?」「まーいいか、これでいいか。」なやみます。

そんなある日、母と話しました。「この世界に、どうして生まれたのか、僕は自分の人生で何をしたらよいか?」母はこういいました。「アンディー、今あなたが生きているのは奇跡と言っていいのよ。あなたが生まれる可能性はゼロに近かったのだから。おじいちゃんは日本軍とたたかって九死に一生を得たし、おとうさんは中学生のとき、不良にあしのふとももを刺されたり、車にひかれたりした。あんたも危なくバスにひかれ死ぬところでしたよ。今何をしたいの?すきにきなさい!自分がちっぽけな存在なんてどうでもいいの。自分がしたいことをきなさい。必ず人生を楽しんで、後悔しないようにね。」

それ以来、僕は真剣に将来を考えるようになりました。今の僕の夢は小説家になって、ファンタジー小説をたくさん書き、人々をたのしませることです。自分がやりたいと思えば、力がわいてきます。

「人はいつか必ず死ぬ。僕の存在なんかちっぽけです。」

死ぬ前に自分の人生がフラッシュバックするとききます。でもそれを見られるのは、本人ひとりです。だから、僕は自分で見る価値がある最高の人生の物語を生き、最後に楽しみながら死にたいです。

大胆不敵な女

Ashley Loo

大胆不敵な女。それは私の母です。

「えっ？いまペルーにいるの？」

「えっ？チリに？」

「三週間かえってこない？」

こんな会話をすると、母がなんかげつも家にいないことにおどろかれますが、この時は銀行のマネージャーでした。母のしょくれきはユニークで、ある時はとしょかんいん、ある時はようちえんの先生、またある時は銀行のマネージャーとかわりました。そして今、いりょうぶんやではたらけるみちをもさくし、勉強しています。そんな母を父はいつもささえています。母はまずしいかていしゅっしんです。「何もなかったらどうやって生きていいのかしら」ときくと、「生きのこるためには、勇気と信念よ。」どんなしごとであっても、母はけんめいにはたらきますが、ただたべるために仕事をするのではなく、いぎあるしごとをしたいという希望をつねにもちつけて生きてきたそうです。母の生き方は、私にこうかいしない人生をあゆむように、いつもおしえてくれています。しかし、6年前、そんな母のかんがえをりかいしていませんでした。

「カナダにひっこすよ。」とりょうしんがある日とつぜんいいました。私はこの時11さいで、マレーシアですごしていました。マレーシアはイスラム教徒が多く、ゆうぐうされていたので、マイノリティーグループの私たちは、いろいろなめんであまり明るい未来があるとはいえませんでした。母は銀行のマネージャーのカナダでのポストをオファーされたとき、子供たちの教育やしょうらいを考え、けつしいたようです。そのため父はしごとをやめました。じかんがたつにつれ、私は母のせんたくに感謝するようになりました。カナダは私にひろいせんたくのじゆうとかのうせいをあたえてくれました。もしまだマレーシアにいたら、「どんな高校生活だったのかな？」「ちがうみちをめざしていたのかな？」うちきな私がいまはじゆうに自分を表現し、じぶんがどりよくすればただけ、なにじんでも、だんせいでも、じょうせいでもチャンスがあるとしっています。だからこそ、どのみちにすすもうかなやむこともできます。

今は、大学にいて日本語をせんこうし、日本へいってみたいと思っています。どんなことがあっても、へんかをおそれず、自分らしいじんせいをみつけ力強く歩いていきたいです。母がこんなんをのりこえられてきたなら、私だってどんなこんなんものりこえらるとおもいます。なにしろ、私は「大胆不敵な女」の子供なのですから。



## 山手線と僕

Young Hoo Cho

2006年の夏、8歳だった僕は、初めて日本に行きました。東京で私たち家族のホテルは、東京モノレールの流通センター駅の近くにありました。毎日、東京モノレールで浜松町駅に行って、そこで、山手線に乗り換えしました。その時は、日本語をぜんぜん知りませんでした。僕は、乗り物が大好きなので、東京モノレールの快適さや、山手線の正確さに感動しました。

東京旅行するには、JRの山手線が便利です。だから、一日に六回以上、山手線に乗っていました。ほぼ毎日、新宿、品川、新橋、上野のような大きい駅に下りましたから、駅の名前を漢字で早く覚えられました。毎日、毎日、山手線に乗って、駅の名前と順番（じゅんばん）も覚ええました。山手線の29の駅の名前を全部漢字で書けた時は、自分でもすごいと思いました。これが、私が日本語を好きになったきっかけです。

韓国に帰って、日本語の勉強を始めました。山手線のおかげで、漢字もちょっと知っていましたし、韓国人の僕には、文法もやさしかったから、日本語が大好きになりました。

2007年の秋に、両親とおじいさんとおばあさんと5人で、今度は、東京と大阪に行きました。そのときは、新幹線にも乗りました。そして、東海道新幹線の名前も、全部覚えたのです。日本語を少し話すこともできました。勉強した日本語が通じて、本当に、嬉しかったです。2007年の冬にカナダに移民してきました。英語を勉強しなければいけなかったから、日本語はちょっと休みました。そして、2010年の春に日本語を続けました。それから、今もずっと日本語の勉強を続けています。新しい漢字がどんどん出て来ますが、僕は勉強している漢字の中で山手線の駅の名前の漢字があれば全部記憶できます。

例えば、「時代」の「代」は、「代々木」の「代」とか、「反対」の「反」は、「五反田」の「反」とか、「久しぶり」の「久」は、「新大久保」の「久」とか。漢字を見ると、すぐに山手線の駅と結（むす）びつきます。いつも、それを言うので、日本語の先生が、「すごい、すごい」と、嬉しそうに笑います。2006年に日本に行かなかったら、今、僕は日本語を話さないと思います。日本に行って、山手線に乗ったおかげで、日本語に興味を持ち、漢字をたくさん覚えることができ、本当によかったと思います。

## 180 度変わった私の考え

Yoohyun Cho

人生はいつも嬉しいことばかりではありません。人は誰でも生まれてから死ぬまで失敗、悲しみ、絶望などがなければ良いと思います。私も少し前まではそうでした。もくひょうに向かって走っていて、障害物がある時、克服しようとしなくてあきらめていました。運命は変えることができないから悪いことがあったら、あきらめるべきだと信じていました。しかし、去年の十月ロジャース・エリナで行われた「We Day」と呼ぶイベントに参加した後私の考えは180°変わりました。We Day と言うのはカナダ全国の青少年たちのためのイベントです。このイベントで私はたくさんのことを学びました。特にゲストスピーカーの過去がいんしょう的でした。ほとんどが貧困や暴力などの試練の過去を持っていましたが、それを克服してきた人たちでした。その中で私が最も感動したのはスペンサー・ウエストと言う人でした。この人がぶたいに立った時、私だけではなく、たくさんの人が驚いたようでした。彼は下半身がなくて、二つの腕で体をささえぶたいの上を歩いていたからです。スペンサーは特別な病気で、5歳の時足を切断しなければならなかったそうです。その時周りの人たちから「これから一人で何もできないだろう」と言われたそうです。でも自由にぶたいを動いて、自信まんまんにスピーチをする様子はその言葉の反対でした。私は彼から「あなたの能力がどうであれ、性別がなんであれ、ひふの色がどうであれ、ぜったいにあきらめず、たくさん笑えばなんでもできるよ」と言われました。その言葉を聞いて、私はそれとひかくにもならない小さい試練に会うたびに、すぐあきらめてきた私の行動がはずかしくなりました。スペンサーは高校に入った時チアリーダーに成ったそうです。今は、アフリカなどはってんとじょう国に行って色々なボランティアをしています。私は人生はかんきょうによって左右されるのではないと言うことをさとりしました。私自身の人生行路を決定するのは私自身だと言うのもさとりしました。私はそれから困難に出会っても、あきらめないで勇気を出して、もくひょうを達成するつもりです。

私は誰でしょう？

Shana Yi

みなさま。こんにちは

今回、「私は誰でしょう？」の問題について話をさせていただきます。まず、私の名前からについて説明します。私の名前を聞いた多くの方が不思議と思うでしょう。名前は名字と名前を組み合わせるのが普通ですが、私は例外です。小学生のとき、よく回りの人や同級生などに聞かれました。そのとき、初めて、みんなと違う事が気付きました。その理由を母に聞きました。母はモンゴル族の中国人です。モンゴルでは伝統的に、名字は名前につけない習慣です。私の名前はモンゴル語ですから、名字がありません。

私の両親は中国で生まれ、私も国籍では中国人となっていました。しかし、私は日本に生まれ、小学二年生まで日本で育ちました。両親や友だちと日本語で話し、テレビや新聞、漫画で日本語を読んだり、聞いたりして、自然に日本の習慣を身につけました。カナダに来てからも、日本の習慣は染みついています。例えば、日本語でも、英語でも、フランス語でも「ありがとう」や「ごめんなさい」と言う時、日本人のようにお辞儀をしますし、ご飯を食べる前には「いただきます」といいます。小さなことですが、いつでも、どこでもそうするのが、私の生活の一部になっています。ですから、自分が日本人だともありました。

小学校二年生の時、両親とともにカナダに移住して、私の生活に変化が起こりました。まず、カナダの学校に入る時、私の名前が問題になりました。名字を付けなくてはならなかったので、私の名前、Yishana(伊莎娜)の「YI」を名字として使うことにしました。また、学校で話す言葉も英語になりました。授業は全部英語で、英語の教科書を使い、英語の文学を読みました。さらに、6年生から8年生までの3年間は、フランス語で授業も受けました。学校の授業ではフランス語、授業以外では英語、家と週一回の日本語学校では日本語を使うことになりました。

カナダに移住してから、小学校、中学校、高校、アジア系カナダ人の私にとってさまざまな文化、言語、習慣などの環境の中にいると思います。私の両親は中国出身なので、私自身は中国語があまり上手ではありませんが、家では日本の習慣だけでなく、中国の文化や習慣にも従っています。カナダ、日本、中国の文化の中で生活しながらも、私は自分が全くの日本人、中国人或いはカナダ人であると思うことが出来ませんでした。私は誰でしょう？

皆さんは自分のアイデンティティーの問題についてお考えになったことがあるでしょうか。もし、私が中国人の両親から中国で生まれ、中国で成長していれば、このアイデンティティーの問題を考えることはなかったでしょう。日本で生まれ育ち、その後、カナダに移住したことによって、考える機会を与えられました。今の私は多文化の旅の途中でもあります。今後もそれぞれの文化や習慣、人々と触れながら、「私は誰？」という問題に対する自分なりの答えを見つけたいと考えています。

アニメよ、どこへいく？

Tielia Young

皆さんこんにちは、私はティエリアと申します。いまだ幽霊なんかを信じている珍しい 18 歳、よろしくお願ひします。日本語の勉強を始めたきっかけと言えは、やはりアニメです。

アニメは私の人生の半分、というわけでもない、人生の三分の一くらいかな。残りの三分の二はゲームと小説かな。そのアニメには一体どんな魅力があるというのでしょうか。私にとって、アニメは第二の先生でした。例えは、子供のとき、ガンダムやマクロスから、正義は勝つということを学びました。今はそうでもないことも分かってきましたが、もう一度みると、戦争の残酷さなど新しい気づきもあります。そういうエンタテイメントの中に作者の魂と伝えたいものを込めたアニメを見ること出来るのは、とても幸せでした。

でも最近は変わってしまいました。何時の間にか、あのころの熱い気持ちも財布の中の飯代も無くなって、残るのは空虚感と周辺商品だけになってしまいました。今のアニメには必要のないエロと暴力の表現が多かったり、一時話題になってもすぐ忘れ去られてしまうアニメも多くなって、関連商品ばかり増えてきています。一言で言うと、最近のアニメは金の匂いがし過ぎると思います。アニメは子供向けのものというイメージがありますが、実は裏には物凄ひ量の金が動いている立派な商売なのです。一話 26 分のアニメを作るには、1200 万円ほどかかります。ワンピースみたいな人気アニメでも、テレビ局から回収できるのは 80% くらいで、残りは周辺グッズ等売らなければならないそうです。子供のためのアニメなんか今誰も作らない。子供に消費力がないから、大人のオタク向けのアニメがどんどん増えているのです。

でも私はそんなアニメは嫌ひです。金儲けのための、中身の無いファストフードみたいなアニメはつまらないと思います。時代という大きな流れに逆らうのは難しいけれど、少なくとも私は本当にいいものを応援していくことを忘れないうにしたいと思います。

## 答えは心に

Iris Hu

この講演の話題は何にするのがすごく悩んでいた。歴史、道徳、政治、戦争、良い話題は山ほどあった。でも良く考えれば、このような話題は全部一つの線で結ばれた、それは、生き方です。人が集まれば、大きな力になる。大勢の人なら、国を創る事、戦争を発動する事、地球が何億年も維持してた生態バランスを崩す事もできる。けれど、バラバラにすれば、私達一人一人は何の為に存在してるでしょう？そう、私達は、このパズルみたいな世界を構成する一ピースしか過ぎない、一人なら、誰をなくしても、時間はそのまま進む。でわ、私たちはなんの為に生きてるの？やはり、どんな話題を話しても、この問題は考えるべきです。生きてる意味は生き方を決める、そして人それぞれの生き方は世界を変えるでしょう。

なんの為に生きてる？ と考えると、思わず<BLEACH>と言う漫画の中の言葉を思い出した。浮竹十四郎は“この世に二種類の戦いがある、命を守る為の戦いと、誇りを守る為の戦いだ。”と言う、そして、“俺から思うと、両方も同じ、心を守る為の戦いじゃないか？”と、志波海燕は反論した。私は志波海燕さんと同じ日の誕生日ですから、彼の言葉がすごく気になって、覚えてた。その言葉が、私の問題の答えになった。私達は、心を守る為に戦うなら、同じ理由で生きてるでしょう。では、心と言う物はなんでしょう？どこにあるでしょう？心臓と同じ所ですか？それとも頭と同じ所にいるか？

私から思うと、心は人の間にいます。私とあなたが話し合う、気持ちをぶつけ合う時こそ、心は私達の間で生まれる。誰かを思う時、心はそこにある。もし世界に自分しかいなかったら、心はどこもないでしょう。心は、一人一人の、ほかの人に対する思いと気持ちです。そして、これこそ人と人を結ぶ、バラバラに散らしたパズルのピースを集める力です。財産が使い切っても、体が灰になっても、魂が生まれ変わっても、心だけは、仲間に預けて、この世に残して行くから、心こそ、歴史と未来を繋ぐ、世界を決めるものです。そして私達は、過去の人が残した心を守り、次の時代にこの心を伝える為に、生きてるんだ。

でも心は、儂くて、掴めない物です。そして常に身近にあるから、逆に見失ってしまうかもしれません。何を手に入れる度、必ず何を手放すから、効率化や秩序を求めてる今、人は心を忘れたかもしれませんと、私は思う。もっと豪華な生き方を求める途中で大事な事を失ったから、私達の隣に戦争、環境などの問題が現れるんだ。小さい頃から“前を見て歩かなきゃ、転んでしまう”と親に言われた。でも私達は、転ばないように、迷わないように歩いている訳ではありません。空を見て、虹と出会い；地面を見て、花と出会い；ぶつかったり、行き止まりあって戻ったりこそ、人と出会い、物語と出会い、自分は一人ではない事を気付け、生きてる意味を見つけるんだ。

確かにこの世界には数え切れないの問題がある、そして全ての問題がいずれ解決できるの保証はどこにもありません。でも、毎日スピードアップする生活の中、たまにも立ち止まって、心の声を聞いたなら、必ず、答えは見つかれると、私は信じています。

きえた水のあわから学んだゆうき

Jeremy Kavka

みなさん、「ふく水ぼんにかえらず」と言うことわざを知っていますか。これは、逃してしまった機会は返らないと言うことです。二年前、東京で僕は水をひっくり返すことになりました。それは、『白雪姫』のミュージカルの時でした。僕は、『美少女戦士セーラームーン』が大好きです。そのミュージカルで「セーラームーン」の女優の沢井美優さんが『白雪姫』になったのです。

しかしミュージカルを見るために、僕は準備をしなくてははいけませんでした。げきじょうでチケットを買う前に、僕はノートにたくさんの日本語の文を書きました。「今日、二時半のショーのきっぷがありますか」「一つきっぷをおねがいします」「えい語ができますか」です。海外では、小さい事にも準備をしなくてはなりません。まだ勉強していない日本語を使って自分でチケットが買えたので、僕はうれしくてちょっとほこらしかったです。

そして、ミュージカルが終わった時、僕に大きなチャンスが来ました。はいゆう達がろうかへ出て来たのです。それは、準備していなかったことでした。子ども達はす早くれつを作って、はいゆう達と写真をとり始めました。でも、僕はカメラを持っていませんでした。その上、唯一の外国の大人だったので目立っていて、とてもはずかしかったです。しかし、色々ときいけんした方がいいと思い、子ども達のれつに入って、僕も沢井さんの前に来ました。「あなたのファンがカナダに一人はいます。それは僕です」と言うつもりでした。でも、「ありがとうございます」としか言えませんでした。あこがれの沢井さんに会ったのに、はずかしくて何も言えなかったのです。そして、沢井さんに会えた時間は水のあわのようにきえました。僕は、心の準備ができていなかったのです。そして、チャンスはこぼれた水のように返りませんでした。僕がなくしたチャンスは、大きすぎました。でも、このけいけんから、僕はもっとゆうきを出すことを学びました。ゆうきはじゅんびできませんが、じゅんびより強いです。

今、僕は日本語を勉強しています。スピーチコンテストに出ることはこわかったですが、これは、僕の新しい挑戦です。もう僕はおそれません。ゆうきを持つことで、人生はよりよくなると信じています。

チャンスをうしなうことで僕が学んだゆうきについてお話ししました。ありがとうございます。

## 技術の進歩と人間の生活

Junhao Li

皆さんは毎日コンピューターや携帯電話などの様々な電気製品を使っていますか。軽く目を閉じて想像してみてください、コンピューターも携帯電話もない世界を。実は、最近、ある友達がノートパソコンを壊し、携帯電話も無くしてしまいました。彼は新しい携帯を買って、遠距離恋愛中の彼女に電話をしましたが、いきなり怒られて、けんかしてしまっただけです。実は、彼のパソコンと携帯がない間に、彼女が彼に何度もメールをしたり、メッセージを送ったりしたのですが、彼はそのメールやメッセージを受け取らなかったため、ぜんぜん返事をしなかったそうです。二人の間にひびが入り、彼は後悔して、「早くパソコンを直して新しい携帯も買えばよかったなあ」と言っていました。私はその話を聞いて、彼に同情しながら、現代社会における二十世紀の色々な発明の重要性を考えました。

過去数十年にわたり、急速な科学技術の進歩によって、人間の生活も大きく変わりました。例えば、私は十年前に両親から初めて携帯電話をもらいました。その携帯はスクリーンが小さくて、電話とメールしかできませんでした。でも、今、私が使っているiPhoneにはいろいろなアプリケーションがあるので、ゲームをしたり、音楽を聞いたりできるだけでなく、カメラとしても使えます。

進歩した技術は現代生活に多くのプラスの影響を与えていると思います。二十世紀にカメラなどの電気製品の普及で人間の生活が益々便利になりましたが、使いにくい所もあったと思います。例えば、過去のカメラは大き過ぎて持ちにくかったため、毎日の生活の中で手軽に使うことができなかつたかもしれません。でも、今、私は三年前に買った小さくて軽いソニーのデジタルカメラを持っていて、どこでも、いつでも、手軽に写真が撮れます。それに、写真の焼き付けをしなくても、コンピューターで便利に写真が見られます。私は去年、カナダ北部にオーロラを見に行つた時、あちこち観光して、写真を何百枚も撮りました。昔のフィルムカメラを使っていたら、あんなに多くの写真を撮ることはできなかつたでしょう。デジタルカメラのおかげで、私たちはいい写真を撮るようになり、写真の世界は大きく変わったのです。

このように、技術が発達して、私たちの生活はとても便利になりましたが、コンピューターなどの新しい製品を使い過ぎると、色々な問題も起こってきます。例えば、私はこの数年、よく一日に五時間以上もパソコンを使っていたため、視力がどんどん悪くなってしまいました。また、毎日携帯メールばかりしていて、他人と直接話す機会が減ってしまいました。人と話す機会が減ることによって、深刻なコミュニケーションや社会的な問題が起こるかもしれません。確かに、このような深刻な問題もたくさんあるのですが、全体的に見て私たちの生活が便利になったので、私にとってはプラスの影響のほうが多いと思います。私たちは既にこのようなあらゆる利便性や現代の進んだ技術の恩恵に浴しており、それゆえそれらを巧みに日常の中に取り入れる必要があります。私たちはこのようなあらゆる有益な技術をいかに適切に使いこなすか考えるべきです。

技術の進歩はまだ終わっていません。五年後、十年後、五十年後の社会で技術がどんな方向へ発展するのか誰も予測できないでしょう。私たちは新たな技術を備えた社会に適応し、技術を明るい未来のために使うべきだと思います。

## なぜ、弟ばかり？

Sally Wu

私の家族は五人家族です。父、母、妹、弟、それに私です。いつもにぎやかで、楽しそうなので、みんなとても幸せな家族だと思っています。でも、本当は問題がいろいろとあって、私はあまり幸せではありません。一番、納得のいかない問題は両親が弟と私たち姉妹を公平に扱おうとしないことです。

私の両親は娘よりも息子が欲しかったので、両親は一番後に生まれた私の弟をととても大切にしてきました。父も母も弟が家を継ぐべきだと思っているので、弟には時間やお金をたくさん費やします。一方、娘の私たちにはあまり気をつかってくれません。二十歳になってからは、もう金銭面でも私には補助をしてくれないので、私は夜アルバイトをしながらなんとか学校に行っています。で、弟はというと両親からまだお金をもらっていて、そのお金は遊ぶ事に使っているのです。また、両親は私が早く結婚するべきだと思っているので、私がしたいと思っているアメリカの大学院への留学を反対しています。私はもっと勉強をして、いろいろな国に行って、いろいろな事を経験したいのです。そして、将来はいい仕事を見つけて、自立した女性になりたいのです。

家族生活のいろいろな面で、女である私には自由がないのは本当に不公平な事だと思います。どうしてなのでしょう。娘はいずれ結婚して家を出て行くと思っているので、娘はそんなに大切ではないのでしょうか。でも、その割に親は娘を過保護にします。私には門限があって、十一時前には家に帰っていなければなりません。もし、十一時を過ぎると、「いま、どこ？」、「早く帰りなさい！」と電話をしてくれます。でも、弟は一週間友達の家泊まってぶらぶらしていても、両親から何も言われません。弟には彼女がいるのですが、両親はいつも「一度彼女を家に連れて来なさい」と言っています。でも、私の彼氏に対してはぜんぜんちがいます。両親は「ちょっと背が低いんじゃないの？」とか、「している仕事がね〜」とか、「だめ、だめ、そんな人！」と言うのです。両親は私の事を気づかって私の彼氏をきびしく批評しているのだと思いますが、どうして私の意見も真剣に聞いてくれないのでしょうか。私にも十分な選択の自由を与えてほしいと両親に言いたいです。

私の家族関係は今私たちが住んでいる世界の中の男女間の不平等さを映し出していると思います。一世紀前に比べて女性の地位は上がりましたが、今でも社会の高い地位にいる人たちの大勢が男性です。ピラミッドの下の方にいる人に女性が多いのは、大勢の女性が十分な教育を受けられない事が理由の一つだと思いますが、教育のある女性が男性と同じ仕事をしていても、男性の収入の方が多く世界がたくさんあるのはどうしてなのでしょう。多くの女性が社会の中で大切な役割をはたしながら、私たちの社会は進化してきました。女性も男性と平等に社会の中で評価されるべきだと私は思います。全ての家族が私の家族のように娘を不公平に扱っているとは思いますが、私と同じような経験をしている女性たちがたくさんいる事はカナダの中のメディアや海外のメディアを通してよく聞こえてきます。女性と男性が本当に平等に扱われる世界を作る為にはまだまだ時間がかかると私は思いますが、まず、家族の中で男と女が平等に扱われなければ、社会は変わっていかないと私は思います。私はまだ学生ですが、いつか両親から理解を得て自立した女性になる事で、社会の中の一人の女性としての責任を果たしていきたいと思っています。私はこのコンテストの後で、今日のスピーチを両親の母国語に翻訳して 父と母、そして弟に聞かせたいと思います。



「絆」

Lauretta Yu

皆さん、去年三月十一日に起った事を覚えていますか。私ははっきりと覚えています。その日は日本にいましたから。床が揺れはじめ心臓が止まりそうだったことも心に焼き付いています。地震の怖さはもちろんですが、最も忘れられないのは「絆」という言葉です。地震の経験を通して、日本の友達が「絆」の本当の意味を教えてくださいました。

去年、コープジャパンを通して栃木県にある会社で働いていました。そして、地震の時私は会社にいました。栃木は震源地に近かったので、立つ事が出来ないぐらい揺れました。外で避難をしていると、徐々に寒くなってきたので、男性社員は揺れているビルに上着を取りに戻りました。結局上着が足りなくなつて、友達が自分の上着を私にくれました。同僚や友達と一緒にいればきっと大丈夫だと思った瞬間です。

それからしばらく大きな余震が続きました。そして、停電や断水になって、会社も休みになったので、皆段々実家に帰って行きました。私は日本でいられる場所は寮しかないので、捨てられそうな感じがしました。不安になってまだ寮にいた友達に相談すると、友達が「私がいるから、大丈夫。もし私が実家に帰るなら、ロレッタも家においでよ。」と言ってくれました。それを聞いた時、涙が出そうなくらい感動して、不安な気持ちがやわらぎました。

余震以外、福島原子力発電所の問題が起きたりして、家族も大学も私の安全を心配していたので、カナダに帰るべきかどうか迷いました。でも、日本にいと友達にもっと迷惑を掛けると思ったので、結局帰る事にしました。ところが日本を離れる日、駅のプラットフォームで空港行きの電車を待っていると、急に後悔し始めました。電車に乗ったら、友達にもう二度と会えないかもしれない、地震の前から、ずっと気を遣って、家族のように優しくしてくれていたのに、友達を捨てて一人で帰っちゃうなんて、酷すぎると思いました。だから 駅から友達に電話を掛けました。でも友だちは私は安全な場所に行った方がいいと勧めてくれ、「きっといつかまた会えるよ」と励ましてくれました。複雑な気持ちのまま日本を離れました。

今は もう一度日本に戻って友達に直接感謝の気持ちを伝えたいという思いでいっぱいです。日本の友達と一緒に地震を経験して、たくさんのやさしい気持ちをもらって、友情が自分が思ったより深かったことに気がつきました。今友達と離れているけど、一緒に過ごした思い出が心に深く残っています。だから、その大切な友情は遠く離れていても繋がっていると感じています。それが日本で得た私と日本の友達の「絆」です。

## 腐女子と呼ばれる女性

Pauline Tsui

皆さん、こんにちは。ポーリンと申します。5人姉妹の4番目で、腐女子です。腐女子って言葉知ってますか？腐女子は、腐った女の子と漢字で書きます。腐女子と言うのは、男性同士の恋愛を扱った、またはボーイズラブ(BL)と言う小説や漫画などを好む女性の事です。今日はこの腐女子と呼ばれる女性、つまり、私がどのような腐女子なのかをお話したいと思います。中三の時、姉妹達と一緒に「テニスの王子様」と言うアニメを始めて見ました。男性新入生がテニス名門校に入学して、全国大会優勝を目指して頑張るストーリーですが、男の子同士のいろんな友情表現が書かれています。最初のころは単純にカッコよくて綺麗な男の子が好きだから見ていましたが、皆と一緒にアニメを見ていた時、姉達我突然BLの話をしていました。BLの事をきいたけど、全然教えてくれませんでした。ネットで調べたら、ほとんどの女の子が認める男性同士のカップルの事を「王道」と言ったり、ファンが原作のキャラを自分が作ったストーリーで男性同士で恋愛をさせる「同人誌」など、BLについての視野が広がりました。それで、少しずつBLの世界に溺れ込みました。

アニメやゲームでBLの解釈は、それぞれ個人の観点到に依存しています。仮に、BLを好きじゃないなら、同性のキャラがいつもお揃いでいても、友情関係にしか見えません。私は腐女子ですから、その同性の友情が恋愛に見えてきます。そして、小説やアニメの中でBLを探さずだけではなく、現実の中でもBLを探します。例えば、「Kinki Kids」は日本で有名な二人の男性アイドルグループですが、彼らはいつも一緒にいますし、他の芸人との恋愛スキャンダルもありません。だから私みたいな腐女子は彼らに恋愛感情があるんじゃないかと妄想します。腐女子のファン達は彼らのグループの十周年を、「結婚十周年」と呼びます。

腐女子がいつも男性同士の関係を妄想する事が好きですから、「腐女子」はマイナスイメージがあります。例えば、私の場合、二人の男性が親密そうな会話をしている場面を見る時、無意識に彼らをじっくり見て、彼らが恋人関係かどうか妄想します。だから、普通の人々は腐女子の事を変態だと思ってしまうかもしれません。それで、ほとんどの腐女子は自分が腐女子なのを認めません。でも私は今日のスピーチで腐女子であると言いましたから、このように公言しても平気だと思います。だって、同性愛と異性愛は同じですから。この二つの違いは、その恋愛中の二人の性別だけです。多分、多くのBLの作品で、「同性が好きではなく、偶然に好きになったのは、同性だっただけだ」という考えに影響されたのかもしれないからです。このように、BLが腐女子達に、同性愛も普通だと教えてくれました。でも今の社会、特にアジアでは、まだ多くの人々は同性愛は精神的な病だと勘違いしているようです。だから、同性愛者は自分が同性が好きだと言いたいなら、凄い勇気を持っていないとかならないんだなあと思いました。

概して言えば、「腐女子」はマイナスイメージを持つべきではありません。私がBLを好きなのは単なる趣味だし、BLのおかげで、オープンマインドになれました。だから、他の人に、批評されないで、腐女子は自分が腐女子なのを認める事を恐れないべきだと思います。そして、皆さんも、それぞれの違いを受け入れましょう。他の人を傷つけない限り、何を好きで、何が趣味かはそれぞれのプライベートな問題なのです。だから、私は誇りを持って、自分が腐女子だと言えます。

## 日本の大天災をめぐって

Francisca Park

日本に多くの被害を与えた2011年春の東北大震災は、数多くの犠牲者を生んだばかりでなく、福島の原子力発電所の爆発という2次災害も起こし、日本の全国民にとって、非常に苦しい試練となりました。しかし、この時期に日本の国民をもっと苦しめたのは日本政府の態度なのかも知れません。福島原子力発電所の爆発に関する被害の確かな状況も報告せず、放射能の危険についてはっきりした注意勧告もしなかった政府は、重要な情報を全国民から隠していると同時に、責任を避けることにしか念頭がないような感じでした。このような日本政府の煮え切れない態度に全国民が不安な気持ちでいる中、だれも想像もしなかった人々がこの状況を改善するために立ち上がりました。私は感動しました。

それは、現在「福島原爆行動隊」、略して「行動隊」と呼ばれる原発事故収束のために組織された団体です。発起人は、72歳の元技術者、山田ヤステルさんです。次世代を担う若者に危険な仕事をさせられないという思いから、元同僚や退職技術者・技能者に手紙やメールで連絡して原発事故収束を呼びかけたところ、多くの人と一緒に役に立ちたいと応じてくれたそうです。現在の行動隊員は677名です。そして、私をもっと感動させたのは参加者の年齢でした。最少年齢者が60歳で、最高年齢者がなんと78歳です。発起人の山田さんは「われわれは年をとって放射能に対しても感度が鈍くなっていて、若い人達よりはずっと安全だし、その先たとえ何があっても悔いを残すということはない」、また「この先の人生が長い若者達が危険な任務を引き受ける立場になってはいけない」と発言しました。69歳の笹木和子さんは「私たちの世代が原子力発電所の建設を進めたのだから、私たちが責任を持たなければなりません」と言い、72歳の塩谷信弘さんは、「原子炉は我々世代の発案だから、責任を持って処理する必要があると感じています」と言いながら、山田さんの提案に応じました。

それまで日本では、高齢化が社会問題となり、年金制度、介護や福祉などでどう高齢化に対応すればいいのかといった問題が政府の重要な課題になり、まるでお荷物のように高齢者を扱っていました。けれども日本が苦境にたった時、日本を助けたいと言い出したのはその高齢者の方々でした。ニュースのインタビューに「もう、福島には絶対戻れません。危険すぎます」と若者達が答えていた時、福島原子力発電所に行って今の日本に役に立ちたいと言い出したのは高齢者の方々でした。日本政府が曖昧な態度と発言で責任を避けるような態度をとって非難されていた時、「我々が責任を持つ」と言い出したのも高齢者の方々でした。深刻な事態や問題にきちんと向き合い、責任の一端を感じ、そしてその責任を持とうとしているこの世代の方々は、日本をここまで支えて来た原動力であり、太平洋戦争以後驚くべき速さで日本を経済大国に押し上げた日本の原動力だったのではないのでしょうか。

高齢化を社会問題としてしか見ていなかった我々は、大事なことを忘れていたかもしれません。社会が世話をしなければならぬ、我々が面倒を見なければならぬと思っている高齢者の方々には、長い間様々なことを犠牲にしながら日本を守り、支えて来た英雄であることを、そしてこの高齢者の方々はまだまだ日本に役に立ちたい、日本のために自分を犠牲しても何かをしたい、と言ってくれているのです。この事実を我々は一生忘れるべきではないでしょう。未曾有の天災により、大きな痛みや苦しみに耐えながら頑張っている今の日本、日本の原動力であったあの方々とともにもう一度奇跡を起こせるに違い

ない。世界の中心の日本としてもう一度立ち直ると、私は信じています。世界中の人々が注目し、応援しています、ぜひ頑張ってください。

## 河童と自然と人間

Vivian He

皆さんは河童という生き物をご存知ですか？河童にどのような印象を抱いているのでしょうか？私は三年前に「河童のグウと夏休み」という映画を見て、河童が自分の住む場所を失ったかわいそうな生き物だという印象を持っていました。ところが最近、「遠野物語」を読む機会があり本来の河童は悪戯ばかりする悪い生き物だったということを知りました。「遠野物語」によると、河童は村人が育てた大事な食物を食べるし、時には子供まで食べてしまいます。そんな悪いイメージがなぜ今は同情されたり懐かしがられたりするようなイメージに変化したのでしょうか？

河童のイメージは変化したのは、百年ほど前からだと思われます。近代化が進む中、人々は大都市に集まって暮らすようになり、豊かな自然は失われ人々の目に入りにくくなりました。その頃から河童のイメージも変わってききたようです。醜い顔や恐ろしい雰囲気がかわいらしいものに変化し、河童はかわいいマスコットのようになっていたのです。このような不思議な変化はなぜ起こったのでしょうか？それは私たち人間が変えてきた環境と世界観に關与するのではないかと私は考えています。

より便利で豊かな生活を追求するために、人間は自然を破壊し、科学の力で自然を征服できると考えるようになっていったのではないのでしょうか。自然はいつの間にか美しく懐かしく優しい存在となり、私たちはその力を恐れたり、それと闘って生きるという意識も薄らいでしまいました。これもまた河童のイメージが変化してきたことと繋がっています。「遠野物語」に描かれた河童には、人間が力の及ばないものを恐れる気持ち、それを知りながらそれに対峙していく姿がありました。でも現在の河童は、人間が恐れるものではなく、人間に征服された、可愛くて、かわいそうで、懐かしい生き物になっていたのです。

この自然に対する人間の姿勢について再考させられる切っ掛けとなる事件が2011年の三月に日本の東北で起きた大地震だったのではないかと思います。地震、津波、放射線といった問題は科学のちからで自然を征服しコントロールできると過剰な自信を持ってきた現代社会の人間に打撃を与えました。こんな強い地震や津波が起こるとはだれもよそできなかつたと原発の関係者は訴えていました。しかし、私はここに人間の傲慢さがあつたのだと思います。自然界は美しいものに満ちていますが、同時に人間の力が及ばない大きな力と恐ろしさももっています。それを再認識させてくれたのが今回の地震だったのではないかと思います。現代の社会で、昔のように大自然に接しその力を感じることは難しくなつていますが、私たちはそれを忘れてはいけなないと思います。

でもそれと同時に、自然の大きな力のしたでは無力とも思える人間にも素晴らしい力があることをこの地震は改めて私たちに気づかせてくれました。それは人間が人種や国境を越えてお互いを思いやり、助け合おうという気持ちです。被災者のために日本国内はもちろん世界中から援助の手が差し伸べられ、多くの人々がいろいろな形で被災した人人や日本に対して何かをしてあげたいと立ち上がりました。この思いやりの心は私たちがどんな困難にも立ち向かつていける力を与えてくれるものだと思います。

現代の暮らしの中に、私たちは忘れていること、見失っているものがたくさんある気がしています。河童と地震は私にそのことを考えさせてくれました。私は自然と共存し、困難なときには一つになつて助け合い、励ましあつていく人間のひとりとしてこれからも生きていきたいと思つています。ご清聴ありがとうございました。

## フェイスブック=フェイス・ツー・フェイス?

Angela Yi

皆さんは、フェイスブックというオンラインコミュニケーションのツールを利用したことがありますか。自分の「フェイス」、つまり、写真などを簡単に載せられて、同時に多くの人とつながることの出来る、非常に魅力的な通信ツールです。ある統計によると、2011年9月の時点で、世界中のフェイスブックの利用者は8億人で、その8.5割は大学生だったそうです。私も例外ではありません。実は最近、私は友達と電話番号を交換するより、フェイスブックの登録名を交換することが非常に多くなりました。今日は、私の経験した、フェイスブックによる友達関係の有り方の変化についてお話をさせていただきたいと思います。

言うまでも無く、フェイスブックを使えば、遠いところにいる友達とも、テキストメッセージや電話より安い料金でコミュニケーションがとれます。もっとも素晴らしい点は、小学校の同級生、昔の友達など、連絡が途絶えていた人を、フェイスブックを通して見つけることができることです。私の友人の女性は、8年も会っていなかった台湾にいる友人を偶然フェイスブックで見つけ恋人になりました。フェイスブックにはこのようなロマンチックなドラマもあります。その上、友達と直接話をしなくても、フェイスブックにログインすれば、彼らの近況がわかります。時間もエネルギーも節約できるので、とても便利です。このような利点を考えれば、フェイスブックを使って友達と付き合うのも悪くはないように思えます。

しかし、ある調査によると、世界中のフェイスブックの利用者が登録している友達の平均人数は約130人ですが、頻繁に話し合う対象はわずか5人ほどだそうです。この差は、私達のようなフェイスブックの利用者の多くが、初めて会った人でもだれでも、すべてフェイスブックに登録するからです。調査結果が示しているように私にも百人以上の友達がいますが、頻繁にメッセージを交換する友達は両手でかぞえられるほどです。それ以外の友達との接触はフェイスブックの写真をみたり、簡単なコメントをするだけです。特別な用事がないかぎり、わざわざ連絡はしません。

そんな気持ちでフェイスブックを利用していた私は、にがい経験をしました。大学一年生の時、同じクラスに仲の良い女性の友達ことができました。一緒に昼ご飯を食べながら面白い話をしたり、試験勉強を一緒にしながらお互いに励ましあったり、とてもいい関係でした。でも、二年生になり、クラスが別々になってしまい、私達の付き合いはフェイスブックの上に移りました。その時の私は、フェイスブックに彼女を友達として登録すれば、いつでも話すことができるので、友情はそのまま続くと考えていました。ところが、お互いの関係がだんだん遠ざかってしまいました。理由は、私達はフェイスブック上に近況や面白い話を載せましたが、他にも大勢の人が同じ画面を見るので、深い、または、個人的な話ができなくなったからです。

このことで私が気付いたのは、フェイスブックは友達との情報交換には有効なものですが、付き合い方は非常に表面的なので、そのような浅い付き合いを友情だと勘違いをしてはいけないということです。つまり、ネット上にならぶ「フェイス」だけを眺めることに満足して深い感情が伝わる「フェイス・ツー・フェイス」の付き合いをおろそかにしたら、友情を薄めてしまうことになるのです。少なくとも私の経験ではそうでした。

最近、フェイスブックが時価総額 500 億円で株式市場に入るというニュースが注目され、これからフェイスブックはさらに発展し、あっという間に大勢の人々が利用することになるでしょう。しかし、私は自分の失敗した経験もあり、今後は「フェイス」をネット上にのせたりするというトレンドを夢中に追いかけるよりも、むしろ、時間もエネルギーもかかりますが、お互いにの優しい笑顔、言葉、または、相手のぬくもりを感じさせてくれる「フェイス・ツー・フェイス」の付き合いを一番大切にしないではいけな  
いと痛感しています。まずは、失った友情を回復します。今度、電話で前のクラスメートに、「来週、一緒にご飯を食べよう」と、誘ってみようと思っています。